

第1回野洲市総合計画審議会 環境・都市計画・都市基盤整備部会 議事録要旨

●日 時

令和2年2月12日（水） 14:00～16:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員（委員区分毎・50音順）

1号委員：新川 達郎委員

2号委員：浅田 邦保委員、北村 真治委員、野口 明委員、林 かずみ委員、山中 清嗣委員、
山本 一郎委員

3号委員：井上 輝子委員

●事 務 局

服部都市建設部次長、武内環境経済部次長

吉田政策調整部次長、玉川企画調整課課長補佐、垂企画調整課主査、松井企画調整課主事

●傍 聴 者

2名

1 開会

（1）次長あいさつ

2 報告事項

（1）基本構想素案について

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】次期総合計画の各施策について、現状の課題を踏まえた今後の取り組み方針という構成になっているが、現状に関わらずに将来こうありたいという意見も書き込めると良い。

また、分野別計画がどの施策に該当するのかという対応が記載されているとわかりやすいのではないか。

（2）専門部会の進め方について

—事務局より資料説明—

3 審議事項

「第1次野洲市総合計画 - 改訂版 -」の施策ごとの総括について

4-1 ふるさとの景観の保全と創出

4-2 地域環境の保全と創造

4-3 温暖化対策への取り組み

4-4 廃棄物の抑制とリサイクルの推進

5-4 快適な居住環境の確保

◇委員からの主な意見・質問

【委員】施策の総括については、達成できたことだけではなく、達成できなかったことについても記載いただきたい。

【委員】野洲市景観計画において野洲駅南口を重点地区に設定したとのことであるが、北口も検討してみてはどうか。マンション建設が進んでいて気になっている。

【部会長】南口は三上山、北口は琵琶湖ということはかなり重要なテーマかもしれない。

【委員】将来的に、10年、20年、30年先の野洲市全体の景観に関するイメージができていれば、それに応じた計画が立てられるのではないかと。将来、人口が減ってくる中で、より多くの人に住んでもらうために、今あるところをきれいにしていだけでなく、みんなが来て住みたくするような景観を持ったまちというアプローチができれば良い。

【委員】この実績の裏には、行政が施策の中で引っ張ってくれた部分と市民が支えた部分の両方がある。現在のボランティアは団塊の世代がたくさんいるが、活動できるのはあと5、6年程度である。熱い気持ちを持った下支えがないと次を担ってくれる人の活動に続いていかないのではないかと。自分たちが住むのだから、住みよいまちづくりへ力を出していこうという風土づくりや、行政も市民も一緒になって頑張っているというところを、今の50代のあたりにアプローチする必要がある。しかし、市民アンケート内の理想とする将来のまちの姿において、「コミュニティや市民活動が盛んなまち」の回答が下から3番目であり、まちへの期待と自らが参画して作っていくこととのギャップが大きいことを危惧している。

【委員】景観について、旧中山道も重点地区にしているという話が出てきたが、街並みの景観が優れていると感じる市民の割合が低いのは、こういうことを何もしていないからではないか。野洲全体でできないのであれば特定の区間の街並み保全をアピールするなど、そういう事業があればそれに伴って割合も上がるが、何もしなければ必然的に割合は下がる。旧中山道のどこかの区域を具体的に保全する計画はあるのか。

【事務局】景観の事業に対しては、市民の理解が得られていないという部分がある。広く広報等を使って丁寧に周知を図っていく必要があると考えている。

【委員】具体的に、景観ではこういう事業をしているということをアピールする必要がある。

また、公園を作ると言っているが、維持管理はどうするのか。現在ある公園だけでも地元自治会は維持が難しく、河川愛護についても、高齢化で実施が難しくなっている。市の道路河川課に要望したが、氾濫するような川ではないという景観の観点が抜け落ちた回答があった。

【委員】道路などのインフラはどんどんできているが、道路ができればできるほど野洲を素通りしていくように感じ、残念である。インフラも大事であるが、住んでいる人たち、老若男女みんなが集えるような、芝生があって、緑がいっぱいあって、ベンチがあって、ちょっとした森も近くにあるヨーロッパにあるような大きな公園が野洲にできたら良い。

【委員】野洲市の今のCO₂の削減目標は、県の掲げている削減率と整合を図らないといけない。野洲で無理があるのか、なんとかなるのか気になるが、日本の誇りにかけて市民のところまでつながっていくような設定が必要である。

【部会長】パリ協定で示された、2050年までに世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求するというのが国際的な目標となっている。これに向けて2050年には、トータルでプラスマイナスゼロエミッションという目標を達成できるような、これからの5年、10年を考える必要がある。

【委員】人口減少、少子高齢化は紛れもなく、これから進む道であるため、昭和のように右肩上がりの時代とは違う。人口も徐々に減る中で、住んでいる人が安心して、ゆったりと暮らすことができ、みんなが幸せに生きられるような計画が必要である。

地域の中で役員の高齢化や成り手不足がある中、地域の中で住んでいる人たちが、それぞれの役割やできることをそれぞれやっていくようなソフト面のシステムづくりを考えていくのが大事である。働いて儲けて、商業も発展して、観光客もいっぱい来てというイメージではなく、先ほど意見があったような、公園でのんびりと過ごし、野洲で良かった、住んでよかったという形で考えられたいと思っている。

【委員】2050年頃には核融合発電が実用化されているという予想もある。核融合発電であれば、今の原子力発電と異なり、何かあったら発電しないようになるだけで、危険なことは少ないため、例えばそういうものを誘致しましょうという案を入れてもおもしろいかもしれない。

「自然と調和して安心安全で、みんなが参加意識を持って暮らすまち」という将来都市像を挙げているが、みんなが参加意識を持つために、市民、行政、企業が一緒になってまちをつくっていくという活動が大事である。行政としては、そういう市民、企業、みんなが一体となることができるような活動をプロモートし、仕掛けていかなければならないと考えている。

先日、ビワマスフォーラムに参加したが、市民が取り組んでおり、すごく良かった。子どもたちがいっぱい参加し、環境教育にもつながるような活動が川だけではなく、森でも林でも原っぱでも幾つもできれば、みんなが参加意識を持ち次の世代の育成にも繋がる。みんなでつくっていくまちという形に繋がる活動があれば、ピックアップして育てていくことができれば良い。

市内に住んでいる人に何か役割が与えられ、皆さん何かしましょうよという雰囲気づくりができれば良い。

【部会長】市民活動をどのように活発にしていくかは、街並み景観、自然景観、さらにはエネルギーの施策やゴミの減量等々にも全て関わってくるものであるが、これまで活発に活動してこられた地域のいろんな団体が少し疲れてきているという部分があるようである。どのように次に向けてつないでいくのか、あるいは作り直していくのか、また、行政、企業の役割、新しい団体の役割をどのように組み合わせると良い景観や、ゴミの減量ができるのかということを考えていく必要がある。

【委員】税収は右肩上がりではないと思うので、財政を安定させるために、受益者負担や利用料の設定について検討するべきではないか。例えば、ゴミ袋代が負担だなと思えば、なんとかゴミを減らそうと思う。広報も新聞をとる人が減っているから郵送しているとのことであるが、郵送料は市負担なのか、どこまで本人が負担しているのかが気になる。何でもかんでもサービス精神旺盛な状況ではいけなくなっているのではないかと感じている。

【委員】行政も市民も、断捨離する時代ではないか。今新たなものを建てたら、またその維持管理に費用がかかる。どちらかといえば、今は過去に作ったものが維持しきれずに放置されており、個人でいえば空き家の問題もそうであるが、公共の建物でも維持管理が大変なものが結構ある。新たなものを作るということはよっぽど考えないといけない。作るべきなのはモノではなくシステムではないか。

【部会長】エネルギーをつくるよりは、使う量を減らしたほうが早いということかもしれない。ゴミ問題も、家庭から出るゴミを少しでも減らすということがもっと進めば、かなり解決できるかもしれない。

【委員】食品ロスや学校給食での残食が問題になっているが、どこかの学校で、子どもたちが地域の畑でちょっとゆがんだニンジンや、売り物にならない野菜をもらってきて、給食センターに持ち込み、給食用に調理してもらうことで、その学校の残食がすごく減ってきたという事例があり、このような活動を取り入れられたら良い。

ゴミ出しの困難者に対し、近所の人が補助したり、市が回収車を週に1回出すなどの取り組みはあると思うが、そこに住む人たちの気持ちが優しくなれば、このようなことを言わなくてもやってくれるのではないかな。優しい人がすむまちづくりができるようなアイデアや仕掛けがあれば良い。

【委員】給食については、昔は各校で取り組んでいたが、今はセンター方式である。各校に給食室があり、昼前にはいい匂いがするような、我々が子どもの頃のようなことがあれば、食に対する子供たちの考え方も変わってくると思う。

【委員】30年ほど前に、自校方式であった時に、小学校の給食を親が食べる機会があったが、温かくて種類も多く、量もたくさんあった。先日、給食センターの給食を食べる機会があったが、冷めてしまっており、種類や量が少なかったため、寂しく感じている。

【委員】中学生は、特に女の子は食べたくても食べないなどがあり、残食が多く給食指導が大変である。他の自治体の給食センターが調理部門等を業務委託しているのに対し、野洲の場合は調理師まで全て市で採用し、直営でやっている。他の学校から来た先生が、「野洲の給食、おいしい」と言っていたこともあるが、やはりそれでも自校方式には負ける。

【委員】例えば自校方式に逆戻りしたら、野洲の給食はおいしいということで人を呼び込めないか。自校方式はほとんどないため、野洲の目玉商品にならないか。

【委員】人を増やすのか、このままいくのか。人を増やすのであれば、呼び込む等、何かを打ち出していけば、気に入った人は来てくれると思われる。しかし、そういう時代ではないのではないかな。

【委員】全体が減っていく中でパイの取り合いをしても仕方ないのではないかな。

【委員】全体の人口が減ることは明らかであり、野洲くらいの規模のまちは、減り具合がすごく大きい。がくんと人口が減れば安らかに生きていけないので、何らかの仕掛けが必要ではないか。インフラがそろっている等ということではなく、ここなら住んでいいなというまちにしていったら、多少なりとも人が来て、人口が減る度合いが軽減されるのではないかな。

【委員】野洲はあまりにも、人口や学区に格差がありすぎる。野洲小学校は現在800数人の生徒がいるが、学校の広さは私が在学した時と変わっておらず、むしろプールができた分小さくなっている。一方で、篠原小学校はものすごくグラウンドが広いが、生徒が150人か160人で、野洲小学校の1学年の人数しかおらず、グラウンドの隅は使わないから草が生えている。

アクセスの問題も出てくるが、野洲の中でバランスの良いまちづくりが出来れば、解決することも出てくるのではないかな。

4. その他

3月7日開催予定のワークショップについて、事務局より説明。

5. 閉会